

エディトリアル

本号の寄稿について

江面正幸

国立病院機構仙台医療センター

仙台医療センター医学雑誌編集長

(2022年8月22日受稿、2022年8月22日受理、連絡先：江面正幸・仙台医療センター 医学雑誌編集長)

この春、当院脳神経外科で大きなニュースがあった。当院医長の斉藤敦志先生が、弘前大学脳神経外科教授に選任されたのである。当院に勤務経験のある大学教授はこれまでも存在した。脳神経外科でいうと、筆者が医師になって間もなく当院に勤務した時点では小川彰先生と嘉山孝正先生が脳神経外科に勤務していたが、小川先生は後に岩手医科大学の脳神経外科教授になり、その後同大学の理事長にまでなっている。嘉山先生は後に山形大学脳神経外科教授になり、その後国立がん研究センター理事長にまでなっている。私が医長となってから一緒に勤務した園田順彦先生は現在山形大学脳神経外科教授になっているし、藤村幹先生も現在北海道大学脳神経外科教授である。しかしこれらの先生は、当院から一旦大学に異動してそこから各大学へ旅立っている。

つまり、当院の勤務中に大学教授選に立候補しその職を勝ち得たわけではない。おそらく他の診療科においても当院から直接大学教授に栄転したという事例はないのではなかろうか。そういう意味で今回の「事件」は将に快挙と呼べる。そしてこのことは、当院で勤務する中堅からそれ以上の医師たちに、大いに勇気を与えることだろうと思う。

大学病院でもない地方病院から直接大学教授になるという快挙を成し遂げた斉藤敦志先生に、第二第三の斉藤先生に向けてのメッセージを発信していただきたいと思い、編集長の独断でこの寄稿をお願いした。これまでの誌面とは少し異なる内容になり読者にはやや戸惑いがあるかもしれない。しかしこのメッセージが必ずや読者のステップアップ、キャリアアップに寄与するものと信じている。